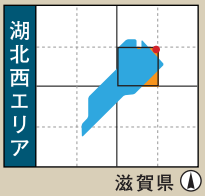
史跡
県指定

若宮山古墳（わかみややまこふん）

湖北町山本　昭和40年5月24日指定



県内には130基前後の前方後円墳が知られていますが、このうち約半数が湖北地域に集中しています。若宮山古墳もその一つで、琵琶湖の良港として知られる尾上（おのえ）を見おろす位置にあり、琵琶湖の水運に深く関わった王の墓と考えられます。

当時のできごと	
364年	百済人　任那に至り倭国との通交を求める
376年	グプタ朝 チャンドラグプタニ世即位
399年	東晋の僧・法顕がインドに旅立つ

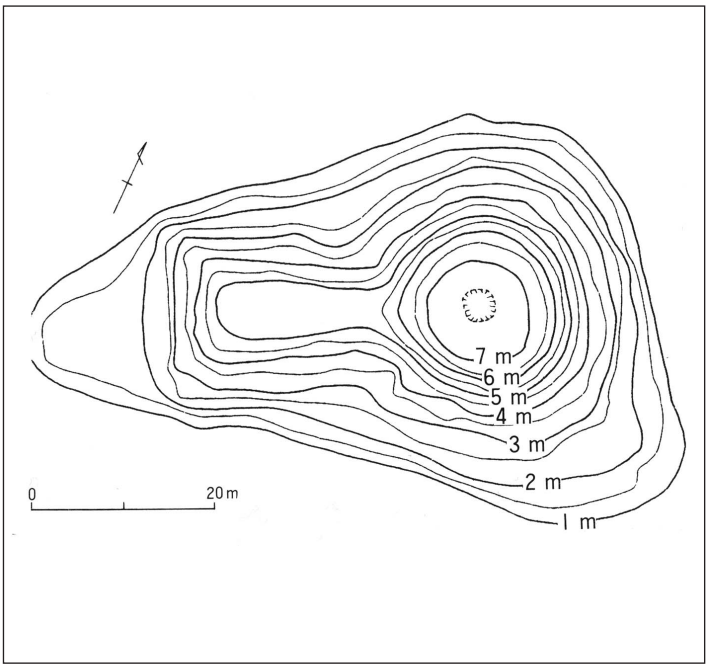


一段目の丘陵上が若宮山古墳

若宮山古墳について

若宮山古墳は、全長が約49m、後円部の径が約32m、高さは約5m、後円部と前方部の比高差が約1.5mの、前方部を平地に向けた前方後円墳です。この古墳は、前方部はくびれ部、端部とも約18～19mで、端部の余り広がらない、いわゆる柄鏡型（えかがみがた）を示し、古い形式の前方後円墳といわれています。主体部の構造は不明ですが、後円部にある被掘坑と思われるくぼみの周辺に割石が散乱していることから、竪穴式石室である可能性があります。

古墳の築造年代は、発掘調査を行っていないため明確ではありませんが、整った墳丘の形、墳丘から埴輪が採取されていること、葺石と見られる石材が見られることなどから、4世紀の後葉頃と考えられます。



若宮山古墳　測量図

若宮山古墳の立地と琵琶湖

若宮山古墳は、北に深く湾入する塩津湾の出入り口、賤ヶ岳から派生し、古保利古墳群が所在する細長い丘陵の先端にあります。ここからは、北西に旧余呉川の河口や、野田内湖などの良港の条件の整う尾上を、目を南、東に転じると広大な湖北の平地や、中京地方へ通じる陸路を見ることができ、この地域が、湖上交通や物流の拠点であったことがわかります。古墳の立地は、古保利古墳群（学習シートNo.037）の一支群のような感を与えますが、墳丘の形が均整のとれた前方後円形であることから、古保利古墳群とは異なり、大和（やまと）との密接なつながりがうかがえます。この古墳の被葬者は、大和政権の、北陸地方に対する政策の実行のために、重要な役割を果たした人物だったのでしょう。また、古保利古墳群からは、奥琵琶湖に延びる湖上路は見ることはできますが、港を見ることはできません。このことから、若宮山古墳の被葬者は、湖上交通、とりわけ港の管理に重要な役割を果たしていたのではないでしょうか。



葺石の状況



若宮山古墳の位置　北西に野田沼および尾上が見える

関連する文化財

茶臼山古墳（長浜市）	学習シートNo.040
荒神山古墳（彦根市）	彦根市曽根沼を見下ろす丘陵上に築かれた前方後円墳。全長は120mを超える
安土瓢箪山古墳（安土町）	学習シートNo.028
和邇大塚山古墳（志賀町）	志賀町と大津市の境界付近にある、湖西方面では最大級の前方後円墳

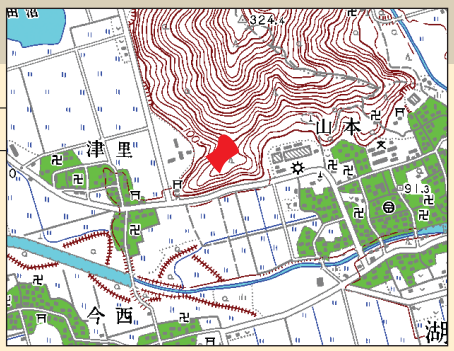
もっと深く知りたい

湖北町教育委員会　☎0749-78-1001　東浅井郡 湖北町速水1308

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

若宮山古墳へのアクセス

JR北陸本線　河毛駅下車
北陸自動車道　木之本インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔前方後円墳集成〕山川出版

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月